

# 意見交換会概要

日 時	平成25年 4 月 17 日 (水) 19 : 30 ~ 21 : 00
場 所	鹿野地区公民館
参加者数	約25人
出席者	校区審議室（神谷、小谷、清水）、竹内地域家庭教育係長、中川支所長、米田副支所長、佃主幹

発言者	主な意見、質問等
参加者 A	案に示された選択肢以外を提案したい。気高、鹿野は一緒になれるが地理的に青谷は無理。気高、鹿野の中学校の位置を両町中央の瑞穂に新築。小学校については気高町の「殿」や「宿」の子は以前は鹿野中に通学していたのだから、当時のエリアで分割して再編成してはどうか。小学校は浜村、宝木、鹿野の三つに集約、統合する新中学校を瑞穂に置くことを提案したい。 (ほかにも青谷と統合はあり得ないとの声あり)
参加者 B	学校統合は8年前の市長アワーでもすでに提案していることで、今更の感がする。西部地域の3つの中学校を残し、気高中学校を本校、鹿野、青谷を分校として、どの中学校に通うかは生徒に選択させてはどうか。各学校に特色を持たせて、例えばサッカーがしたいのなら気高へ、地元（地域）の学校を希望するなら鹿野中へといった、学校を生徒が選択する自由度を持たせる教育を考えていただきたい。週に1, 2回は合同で授業を行ってもよい。学校を無くすと過疎に拍車がかかる。
参加者 C	小中一貫校について現段階での成果は？
参加者 D	鹿野小学校は新しい。小中一貫校のメリットはある。今、6. 3. 3制の教育についても論議されている。小規模校のデメリットとされる同世代間の競争や交流ができないといった面も、3町の学校間で連携することで解消できないか。特色のある教育に取り組むべき。
参加者 E	今でも、鹿野は小中ひとつという認識。一貫校は取り組みやすい。同世代での切磋琢磨が不足するというデメリットについては、主要教科だけでも週一回は合同で授業を受けるとか、学校行事について連携して取り組むとか、といった形を考えることはできないか。西部地域として一番よい方法を考えてほしい。
参加者 F	過小規模校のデメリットはあがっているが、指摘であたっているのは「クラス替えができない」「部活が少ない」という点のみで、ほかの指摘は的外れ。競争心が生まれれないなどは論外。人数が減ったから統合するというのはいかがなものか。人を増やすことこそ重要。地域で子供を育てるといった意識が必要である。地域振興策も大切。

## 意見交換会概要

発言者	主な意見、質問等
参加者 G	鹿野小学校、中学校を残してほしい。「ふるさとを思い 志をもつ子」を育てることは重要。あり方を考える上でこの教育ビジョンにそった説明がなかったことが残念。わが子は鹿野祭のとき、飾る家紋について父親である自分より詳しく知っていた【武田菱でなく四つ割り菱である】。頭が下がる思いであった。これは中学校から教えられたという。郷土の歴史を理解しているということ、鹿野を思い文化を大切にすることを学んできた結果である。統合することでこのような教育は失われる可能性は高い。個人的にはC案（小中一貫校）＋校区割り変更で問題は解決できると思う。
参加者 B	統合中学校を作るなら地域間の遺恨をのこさないように「一、二、三」「東、西」といった校名にすべき。地域名にこだわるとうまくいかない。
参加者 D	先日の説明では耐震化にともなう財政論議に終始していた。合理化、金銭面ばかりの論議で教育という視点が感じられなかった。学校のことは財政論議にならないようお願いしたい。今日は先生もいらっしやって教育面の話を伺うことができてよかった。教育を考えることは大切、教育面を前面に出した論議をお願いしたい。
参加者 I	小中学校が単独で存続することが希望。統合問題の前にさかのぼるが合併協議の際、市長の約束事の中に「過疎化が影響する施策に取り組まない」といった内容があった。旧町村長や市長も出席していた18人程度の会議である。しかし、校区審議会の議事録の中には「統合は合併したからできること、合併のメリットである」との発言もあり、だまされた感じである。もちろん合併しなかったら統合の話も出ないわけで、これは鹿野町にとって過疎化が進むデメリットである。生徒数の多い少ないはあるが子どもたちは90%以上がこの町を好きだという。特色のある街づくりの結果と自負しているが学校がなくなることは、この街づくりがゼロに帰す。
参加者 J	教育委員会への要望。話がコロコロ変わり、毎回説明が違うので戸惑っている。また、詳しい説明もない段階でPTAにも即、アンケートをとったりして。PTAからも今の段階で何を答えたらいいのか、との戸惑いの声もあった。情報が乏しい。PTAや教師にも詳しく情報を開示すべき。
参加者 I	統合は、教育の機会均等といった観点からすると不平等。校区審議会では「小学校は地域との結びつきは大切」、「中学校は地域との結びつきより同年代との切磋琢磨することが大切」、「地域と中学校は切り離して考える」といったニュアンスがあるが本心か。この鹿野地域は、現に中学校も地域と密接にかかわりイベント行事も行っている。校区審議会は中学校と地域の結びつきを軽視しているようだが、教育的立場からのご意見を聞きたい。